

## 宝満川浄化センターの役目は

西岡 花菜

小郡市立 立石小学校

「水ってこんなにきれいになるんだ。」

わたしは、宝満川浄化センターに行ってきました。宝満川浄化センターの役目は、きたなくなつた水をきれいにし、川に水を送る、とても重要な役目です。その中でも、反応タンクの中で空気をふきこんでよごれをはずみやすくしてくれるびせいぶつがいます。わたしたちは、そのびせいぶつのことを

「かつせいくん。」

と、よんでいきます。きたない水をきれいにするために、まず、公共汚水ますと、マンホールを通してポンプ場まで行きます。ポンプ場とは、流れが深くなつた汚水をくみあげる施設です。次にちんさ池で大きなゴミや土砂をはずめて、取りのぞきます。そして、最初ちんさ池につきます。ここは、下水をゆっくり流し、小さなゴミやドロをしずめて、汚水は、反応タンクへ、またちんでんした汚水は、汚水処理施設、というところに送られます。わたしは、下水をゆっくり流し、小さなゴミとドロをしずめられることを知っておどろきました。次に反応タンクにつきます。反応タンクは、最初に言ったとおり反応タンクの中で、空気をふきこんでよごれをはずみやすくしてくれるびせいぶつがいます。わたしたちより小さいびせいぶつが守ってくれていると知りました。そして、最後は、水しつけんさをしています。水

しつけんさは、宝満川浄化センターで処理した水が川や海に流せるかけんさをするところです。けんさが終わって、消どくせつびと言う場所で消どくをして、川や海に流します。わたしは、処理水と手あらいの水と、川の水を見ました。三つを見くらべてみると手あらいの水は、とうめいでキラキラしていました。川の水は、とてもにごって黄色っぽかったです。処理水は、消どくをしたので、少しだけ黄色っぽかったです。順位にしてみると、一位が手あらいの水です。二位が処理水です。そして、三位が川の水だと、わたしは思いました。でもきたなかつた水は、生まれかわつたように、きれいになつたような気がしました。これを家で話すとお母さんが、

「家で使う水がこんなにもけんさをされて川の水になっているのを初めて知りました。」

と、言っていました。わたしは、宝満川浄化センターで働いている人のおかげだと思いました。

また、守ってほしいこととして、次の二つのことを聞きました。

一つ目は、油を水で流さないこと。

二つ目は、トイレではトイレトペーパー以外流しては、だめということです。ティッシュは、水にとけないのでだめだと聞きました。

わたしは、今回学んだことを通して、水をむだづかいしないようにしたいと思います。

そして、水を守ってくれている人たちに、感しゃして水を使いたいと思いました。